

1  
62x

刑法論綱  
蘇書譯  
二

1  
62x

刑法論綱卷二目次

- 第一章 罪犯ヲ治復スル法  
  - 豫防法
  - 制止法
  - 補償法
  - 罰法

第一葉
- 第二章 直接ノ豫防法  

第四葉
- 第三章 久常ノ罪犯  

第九葉
- 第四章 久常罪犯ヲ制止スル法  

第十四葉
- 第五章 軍法ヲ論ス  

第十七葉
- 第六章 補償法  

第二十葉
- 第七章 補償法ヲ必需ナリトスルノ理  

第二三葉
- 第八章 補償ノ類別  

第二三葉

○貨財ノ補償。○品物ノ補償。○證  
見ノ補償。○榮譽ノ補償。○復讐ノ  
保證。○代人ノ補償。

○第九章

補償ノ量

第廿五葉

○第十章

補償ハ必然ナル可キ事

第廿六葉

○第十一章

財貨ヲ以テ補償スルヲ論ス

第廿七葉

○第十二章

物品ヲ以テ補償スル法

第廿八葉

○第十三章

證見ノ補償

第廿九葉

以上

刑法論綱卷二

第二編

法律ヲ以テ罪惡ヨリ生スル所ノ損害ヲ豫防

シ若クハ治復スルヲ論ス

第一章

前編ニハ罪惡ヲ以テ社會ノ病痾ニ比ヘタリ故  
ニ今亦其例ヲ推シテ罪犯ヲ豫防シ人ノ之ニ由  
テ被リタル所ノ損害ヲ補償スルヲ以テ治方

林董譯

ニ比ス可レ即チ其治方ヲ左ノ四類ニ分ツ

第一 豫防法 第二 制止法

第三 補償法 第四 罰法

豫防法トハ罪犯ヲ未萌ニ防クノ準備ヲナス事

ニレテ又之ヲ分テ二類トス曰直接曰間接

第一直接ノ豫防法トハ某々ノ罪犯ヲ一々豫防

スル為メニ直チニ施設スル方法ヲ云フ

第二間接ノ豫防法トハ一般ノ罪犯ヲ豫防スル

為メニ施コス方法ヲ云フ

制止法トハ既ニ其端緒ヲ露シタリト雖モ未タ

果レ遂ケサル所ノ罪犯ヲ制止シ之ニ由テ生ス  
ル所ノ損害ノ全部或ハ其一班ヲ妨ク為メノ施  
設ヲ云

補償法トハ人カ罪惡ニ由テ被リタル所ノ損害  
ヲ償フ法ヲ云

罰法トハ是亦重要ナル者ナリ其然ル所以ハ罪  
犯ヨリ生マル損害ヲ制止シ其害ヲ被リタル人  
ノ損失ヲ補償セシ後チニ於テ犯者若クハ他ノ  
人カ再ヒ同様ノ罪惡ヲ犯スヲ停ムルニ在リ  
抑此目的ヲ達スルニハ二個ノ方法アリ即チ其

罪犯者ノ意思ヲ矯正シ或ハ其人ノ身體ノ力ヲ  
 奪將スルトノ二ナリ其罪犯ヲ再ヒセントスル  
 意志ヲ除却スル一ハ之ヲ懲戒法トイヒ其肢體  
 ノ力ヲ奪フ一ハ之ヲ奪力法トイヒ恐懼ノ心ヲ  
 起サシメテ罪犯ヲ治スル之ヲ罰法トイフ罰法  
 ヲ以テ其犯罪者ノ肢體ノ力ヲ奪フト否トハ其  
 罰ノ性質ニ由ル  
 罰法ヲ行フノ主義ハ同様ナル罪犯ノ再ヒ生ス  
 ル一ヲ遏止センカ為メナリ夫レ既往ノ事ハ單  
 一ノ所行ニ局ル者ナリト雖ヒ將來ノ所行ニ於

テハ際限無キ者ナルカ故ニ過去ノ罪犯ハ一人  
 ノ被リシ者ナリ未來ノ罪犯ニ至テハ將サニ被  
 ムラントスル者ニ限數ナシ然ルニ既ニ為シ遂  
 ケタル所ノ損害ハ補償シ難キ所最モ多カル可  
 シト雖ヒ其再犯セントスルノ意志ヲ除却スル  
 一ノ如キハ恒ネニ為シ易キ一タリ何トナレハ  
 犯者カ罪ヲ犯スニ因テ得ル所ノ利益ハ如何ニ  
 重且大ナリヒ亦其罰ニ因テ受タル所ノ害ヲシ  
 テ隨テ重大ナラシムル一ハ易々タルヲ以テナ  
 リ

此四個ノ治法ハ時トシテハ殊別ノ施設ヲ要ス  
 ルコトアリ復タ一施設ヲ以テ四個ノ用ヲ為ス  
 モノアリ今此篇ニ於テハ直接ノ豫防ト制止ト  
 補償トノ法ヲ論シ第三篇ニ於テ罰法ヲ論シ第  
 四篇ニ於テ間接ノ豫防法ヲ論ス可也

第二章

直接ノ豫防法

凡ソ罪ヲ犯スニハ豫メ其用意ヲ整フルヲ要  
 スル者ナレバ自然前徴ヲ見ハシ警戒ヲ與フル  
 一多シ故ニ其未タ罪ヲ犯サル前ニ多少ノ猶

豫アルヲ以テ之ヲ未發ニ防遏スルヲ得ルナリ  
 去レハ公衆各自衛ノ為ニ注意シテ以テ之ヲ防  
 遏スルヲ得又一定ノ人ニ委ネテ之ヲ阻止スル  
 一ヲ得可シ渾テ公衆ノ自衛ノ權利ハ未タ法官  
 ノ其事ヲ理メサル前ニ於テ施ス事ナレハ之ヲ  
 目シテ法官ニ先タツ豫防法ト稱スルモ可ナリ  
 例ヘハ人ノ將サニ罪ヲ犯サントスル一ヲ慮リ  
 テカヲ以テ之ニ抵抗スルナリ疑ハシキ者ヲ捕  
 ヘ而シテ之ヲ守リ其舉動ニ注目スルナリ之ヲ  
 捕拿シテ法衙ニ伴ヒ行クナリ他人ノ來リ援ク

ルヲ喚呼スルナリ偷ミタリト想フ所ノ物品  
 或ハ打破セラレントスル物品ヲ防クカ為メニ  
 人ヲシテ鑒守セシムルナリ傍觀セシ者ヲ召シ  
 テ證人トスルナリ惡意アリト思察スル所ノ人  
 ヲ法官ノ前ニ伴ヒ行ク為メニ路人ノ援ケヲ乞  
 フナリ凡ソ罪犯アル場合ニ臨ミ此等ノ事ヲ為  
 シテ其害ヲ豫防スルトハ社會ニ要用ナル人民  
 ノ義務ニシテ人々必ス為サ、ル可ラサル者ト  
 スルヲ要ス然則此等ノ事ヲ為シ或ハ此等ノ事  
 ヲ為ス人ニ援ケヲ借シタル者ニハ褒賞ヲ與フル

ノ制ヲ設クルモ可ナリト謂ツ可シ  
 論者或ハ云シ是等ノ事ヲ為シ得ヘキノ權ヲ一  
 般ノ人ニ付與スルキハ恐クハ弊害ノ之ヨリ生  
 スルト多カラント去レハ無道ノ人ハ此權ヲ濫  
 用シ由テ以テ己カ暴威ヲ逞フスルカ為メニ人  
 ノ援ケヲ得ルヤモ亦知ル可ラスト雖此是唯想  
 像ニ在ル所ノ危險ノミ罪犯者ヲ捕フル為メニ  
 人ノ助ケヲ喚フ者ハ治安ノ為ニスル者ナリ暴  
 行者ニシテ若シ己レカ暴威ヲ恣マ、ニスル為  
 メニ人ノ援ケヲ喚ハ、則チ是治安ヲ以テ暴行

ノ口實ト為ス者ナリ是豈其目的ヲ達スル為メ  
ニハ頗ル背反シタル所行ニシテ自家ノ惡意ノ  
發露ヲ招キ易キ所行ト謂サルベケンヤ何トナ  
レバ如此事ヲ為スハ自カラ己カ暴惡ヲ公示ス  
ルノ理ナレバナリ然ラハ若シ一タビ事ヲ誤ラ  
ハ必ス法網ニ觸レテ罰責ヲ受クル所ノ危險ヨ  
侵サ、レハ敢テ用ユルコトヲ得サルノ權ヲ許シ  
タリ此危キ理無シ是等ノ事ニ由テ法官カ人ノ  
援ケヲ借ルノ便ヲ拒ムアラハ是自償スルノ道  
アル害惡ヲ懼ル、カ為メニ却テ回復シ得サル

ノ損害ヲ受クル者ト均シ

人民カ普通ニ占有スヘキ權ノ外更ニ法官ガ特  
有スベキ權アリ是亦罪犯ヲ豫防スル為メニ太  
ク重要ナル者ナリ今左ニ七則ヲ掲グ

第一戒告 是ハ法官カ犯罪ノ嫌疑アル人ニ報  
告ヲ與フルコトニテ彼ノ所行ハ恒ネニ法官ノ為  
ニ注目セラル、コトヲ告知シ其人ヲシテ自反猛  
省擔當スル所ノ義務ヲ遵行セシムル為メナリ  
第二警嚇 此レハ法律ノカヲ借り以テ第一則  
ト同様ナル事ヲ為スヲ云フ但シ第一則ノ如キ



ハ恰モ父母ノ其子女ヲ戒諭スルカ如ク本條ニ於テハ嚴肅ナル法官ノ語氣ヲ以テ其人ヲレテ驚畏セシムルナリ

第三某地某所ヲ離レ去ル可キ約ヲ為サシム此レハ種々ノ罪犯ヲ豫防スル為ニ用ユ就中確執人ノ身體ヲ害スルヲ人ヲ惡事ニ誘フヲ等ヲ防ク為メニ用ユル所ノ者タリ

第四半流 是ハ嫌疑アル者ヲレテ渠儂カ恒ニニ隙ヲ窺フ人ノ所ニ往キ若クハ其家ニ近ツク

一ヲ禁レ或ハ罪惡ヲ干犯スルカ為メニ恰好適

當ナル所ニ到ル一ヲ禁スルヲ云フ

第五保證 是ハ保證人ヲ立ル一ニテ若シ疑ヲ被ル者が禁シラレタル制限ヲ踰ル等ノ事アルニ際セハ若干ノ金ヲ沒取セラレ可キノ約ヲ為サシムルヲ云フ

第六危險ノ地ニ在ル所ノ人若クハ財産ヲ扞禦スル為ニ守衛人ヲ設ケ置ク

第七罪ヲ犯スノ助ケトナル可キ兵械等ヲ沒入スル事

此等ノ一般ノ措置ヲ除クノ外又格段ナル罪犯

ニ就テ格段ナル方法ヲ要スル者ナリト雖モ如  
 此等ノ警察事務ノ詳細ナルトニ至テハ茲ニ歷  
 叙スルニ違アラス且ツ是等ノ方法ヲ用ユヘキ  
 便宜ハ時ノ事情ニ依テ一樣ナル能ハス其事ハ  
 常ニ簡易ナル者ナルヲ以テ其所ニ臨ムテ人自  
 ラ發見シ得ヘキトナリ例ハ人ヲ讒毀スル書  
 籍ハ其未夕出版セサル前ニ之ヲ沒取シ毒害ア  
 ル飲食若クハ劇烈ナル藥劑等ノ如キハ未夕發  
 賣セサルノ前ニ之ヲ投棄スルノ類ナリ又官吏  
 ノ巡邏ニ監察スル等ノトハ詭詐其他ノ姦曲ヲ

防ク為メニ要用ナル者ナリ  
 渾テ是等ノ事ハ確然タル一定ノ條規トスルヲ  
 得ス官吏ト法官トカ臨機適宜ノ措置ニ一任ス  
 ルニ外ナラストハ云ヘ立法家ハ此臨機適宜ノ  
 權ヲ濫用スルトテ防ク為メニ相當ノ制戒ヲ與  
 ヘサルヘカラス其制戒ハ即チ左ノ定規ニ準シ  
 テ之ヲ與フ  
 臨時權宜ノ措置ニ於テ其用ユル所ノ方法稍々  
 嚴酷ニ涉ル者ハ之ヲ用ルニ當テ愈々鄭重慎戒  
 ノ意ヲ加ヘサル可ラス畏懼ス可キ所ノ罪惡其

性質重大ニシテ其罪ヲ犯スルヲ探知シ稍々明  
 較ナルカ如キハ臨機ノ措置ヲ施コスノ權亦重  
 キヲ要ス若クハ罪犯者ノ愈々危懼ス可キヲ覺  
 エ其惡事ヲ為ス所ノ方便亦甚タ多キハ則チ  
 之ヲ防クノ方法タル臨機ノ措置ヲ行フ境域ヲ  
 廣フセサル可ラス然リト雖此臨機ノ措置ヲ  
 行フニハ決シテ超越ス可カラサルノ限界ノ在  
 ルアリ曰ク豫防ノ方法ヲシテ必ス其防カント  
 スル所ノ罪犯ヨリ多キ害ヲ為スニ至ラシムル  
 事勿シ

第三章

久常ノ罪犯

制止法即チ罪犯ノ増進スルヲ止ムル所ノ方  
 法ヲ論スルノ前ニ於テ如何ナル罪犯ハ其増進  
 ヲ遏メ得ヘキ性質ヲ有スル者ナルヤヲ研究セ  
 サル可ラス何トナレハ罪犯ニ由テハ制止法ヲ  
 用ユルヲ得サル者アリ或ハ之ヲ用ユルヲ  
 得ヘシト雖其方法ヲ施用スヘキ時間ノ長短  
 相殊ナル者アリ其罪犯ノ性質タル必ス法官ヲ  
 シテ干渉セシムルホトノ猶豫アル者ナラザレ

ハ之ヲ制止スルヲ得ス然ルニ渾テノ罪犯ハ必  
 シモ悉皆同様ノ猶豫アル者ニ非ス即チ甲ハ暫  
 時ニシテ乙ハ久常ノ結果ヲ有ス人ヲ殺ス等ハ  
 回復スルヲ得サル者ナリ偷盜ノ如キハ暫時  
 ナル者アリ或ハ若シ偷ミタル物ヲ鎖耗シ若ク  
 ハ毀損スルキニハ其結果ハ久常ナル者ナリ然  
 ハ則チ罪犯ノ事情ニ就テ猶豫アル者ト否ラサ  
 ル者トヲ區別セサル可ラス何トナレハ是ハ制  
 止ノ法ヲ用ユルニ於テ大ナル關係ヲ有スル  
 カ故ナリ

第一罪犯ハ何等ノ時ニ論無ク止ムルヲ得ル  
 所ノ所為ヲ息メザルニ由テ久常罪犯ノ形質ヲ  
 得ル者トス例セハ人ヲ抑留シ或ハ竊カニ他人  
 ノ物ヲ取ル等ノ事ハ此種ニ屬ス  
 第二罪ヲ犯サントスル志謀ヲ以テ即チ罪犯ト  
 認ム可キ性質ノ者ナルハ其志謀ノ息メザル  
 限リハ即チ罪犯ノ久常ナル者ナリ是則チ上ノ  
 第一ノ罪犯ノ小別ナリ  
 第三負罪 第一編第三章 ハ多ク久常ノ性質ヲ有ス  
 ル所ノ者ナリ例セハ子ヲ生ムテ之ヲ養育セサ

ルカ如キ金ヲ借テ還サ、ルカ如キ法廷ニ召サ  
ルレ氏出サルカ如キ己カ同志ヲ白狀セザルカ  
如キ他人ノ固有ノ權ヲ奪テ之ヲ反付スルヲ拒  
ム如キ是也

第四所行上ニ就テ久常ノ罪犯ト認ム可キ者ア  
リ例セハ近隣ノ人ノ健康ニ害アル所ノ製造物  
或ハ道路ヲ妨クル所ノ建築又ハ水流ヲ沮ム堤  
防等是ナリ

第五人ノ精神ヨリ生スルモノ亦出版印刷ノ助  
ケヲ以テ同前ノ結果ヲ為ス即チ讒毀ノ文書偽

撰ノ歴史世人ヲ驚スニ足ル可キ預言淫褻ハル  
畫圖等ナリ要ヲ摘ムテ之ヲ言ハハ人ニ公示ス  
可ラサル所ノ想像ヲ顯スニ久シク銷磨セサル  
文字印書ヲ以テスル者ハ都テ此類ナリ  
第六數回ニ為ス所行ヲ集合セハ之ヲ一個久常  
ノ所行ト看做シテ可ナル者アリ如此ハ其罪ヲ  
犯ス者ノ之ヲ為スニ慣習シテ性ト成リタル  
ナリ即チ贋金ヲ鑄造シ若クハ太夕不良ナル物  
ヲ製作シ禁制ノ事ヲ犯ス者等是ナリ  
第七罪犯ノ種類ニ依テ殊別ナル者ナリト雖氏

之ヲ集合スレハ一個ノ罪犯ト認メ而シテ時間  
 ヲ經ル者アリ何トナレハ一個ノ罪惡ハ他ノ罪  
 惡ト連環シテ生スル者ナルヲ以テナリ例ヘハ  
 人アリ他ノ庭除ニ入テ物ヲ竊ミ之ヲ防ク為メ  
 ニ來ル所ノ主人ヲ毆チマタ其主人ヲ逐テ室裏  
 ニ入り其家族ヲ凌辱シテ家具ヲ毀損シ主人ノ  
 愛犬ヲ殺シ種々亂暴ナル舉動ヲ為スカ如キハ  
 其罪犯ノ性質ハ一箇々々殊別ナリト雖モ集合  
 スレハ久常ノ罪犯ニシテ官吏ノ之ヲ防ク可キ  
 猶豫即チ時間ヲ與フル者ナリ

第八多數ノ人ノ同意スルカ或ハ否サルモ同一  
 目的ヲ達スル為メニ事ヲ行フキハ必ス猶豫ア  
 ル者ナリ例ヘハ徒黨ヲ為シテ家財ヲ壞チ或ハ  
 人ヲ驚嚇シ若クハ罵詈訛又ハ人ノ身體ヲ毀傷  
 スル等ノ紛擾ヨリ亂鬪若クハ一揆ト名クルホ  
 トノ恐ル可キヲ牽起スルハ是叛逆或ハ内亂  
 ノ先驅ナリ  
 凡ソ久常ノ罪犯ハ動モスレハ大ナル禍害ヲ生  
 スル者ナリ其企謀セル所ノ罪犯ハ之ヲ實行ス  
 ルヲ以テ其終局トス單ニ身體ヲ毀傷シタル者

ハ遂ニ治復ス可ラサル毀傷トナリ又ハ人ノ生  
命ヲ害スルニ至ル又ハ人ヲ幽閉スルヲヨリシ  
テ各種ノ罪犯ヲ生スルヲアリ例ヘハ已レニ不  
便利ナル事故アリトテ他人ノ憎嫌ヲ妨ケ或ハ  
人ヲ誘導スル為メ證據ヲ匿ス為メ秘ス可キ事  
ヲ摘發スル為メ又ハ訴ヲ止ムル為メ二人ヲ幽  
閉スルヲアリ或ハ幽閉セラレタル人ヲ脅迫シ  
テ罪犯ノ助ケヲ成サシムルヲモアルナリ故ニ  
人ヲ幽閉スルヲハ其罪犯人ノ目的ニ從ヒ其由  
テ生スル所ノ災害亦殊ナリ

罪ヲ犯ス時ニ當リ時宜ニ臨ムテ其目的全ク變  
更スルヲアリ例ヘハ窃盜ヲ現行スルニ際シ人  
ノ發見スル所トナルキハ罰ヲ恐レ若クハ贓物  
ヲ奪還セララル、ヲ恐ル、カ為メニ刺客トナル  
ヲアリ法官ハ能ク茲ニ意ヲ用チテ事毎ニ罪犯  
ヨリ生スル各種ノ災害ヲ熟思詳慮シ能ク速ニ  
之ヲ豫防スルヲ免メサル可ラス其罰ヲ定ム  
ルニ當テハ犯者ノ意志ヲ考究セサル可ラス其  
制止法ヲ用ユルニ臨ムテハ犯者ノ當サニ為サ  
ント欲スル所ノ罪犯ヨリ生スル各種ノ禍害ヲ

考究ニ併セテ犯者自家ト雖正當テ思ヒ及サス  
シテ生スル禍害ヲモ考究セヌンハアル可ラサ  
ルナリ

第四章

久常罪犯ヲ制止スル法

久常罪犯ノ種類相同ニカラサルニ隨テ之ヲ制  
止スルノ法亦殊ナラサルヲ得ス夫ニ此制止法  
タル前ニ既ニ條目ヲ載セタル豫防法ト同フニ  
テ唯之ヲ用ユル法ト時トニ於テ差異アルノ三  
時ニヨリ豫防法ハ罪犯ノ性質ニ適合スルノ自

カラ明白ニシテ故ラニ之ヲ指示スルヲ要セサ  
ルトアリ例ヘハ人ヲ幽閉スル者ハ速カニ之ヲ  
解放スルヲ要シ賊物ハ直チニ之ヲ償還スルヲ  
要ス只其事ノ困難ナルハ幽閉セラレタル人ト  
偷取セラレタル物トハ那邊ニ在リヤヲ發見ス  
ルニ在リ

又罪犯ニ由テハ之ヲ制止スルノ法太夕錯雜ス  
ル者アリ例ヘハ惡事ヲ企ル為メノ集會及ヒ借  
テ而シテ返サ、ル負罪第一編第三ナリ其等ノ  
精細ナルトハ其條下ニ於テ詳論ス可シ



危険アル書類ノ害ハ之ヲ制止スルノ最モ難キ者ナリ何トナレハ其等ノ物ハ善ク秘匿シ秘匿スルニ從テ愈々増殖シ之ヲ撲滅セント欲スレハ愈熾然ノ勢ヲ加フル者ナレハナリ是等ハ間接ノ豫防法ヲ論スル時ニ至テ最モ有力ナル制止法ヲ説示ス可シ

官吏ニハ罪犯豫防ノ方法ヲ施行スルノ權ニ比スレハ制止法ヲ用ユルノ權ヲ許スノ多キヲ可トスルハ理ノ最モ昭々タル者ナリ既ニ制止ト云ハ現ニ犯罪ノ在ルノ言ハスレテ知ルベク

隨テ豫定セル所ノ罰モ亦備具セリ故ニ之ヲ制止スルノミニ止マレハ之レニ因テ他ニ害惡ヲ萌起スルノ懼レナシ罪犯ヲ豫防スル如キハ官吏ノ權ヲ施用スルノ太々審カニシテ且ツ慎重ナルヲ要ス蓋シ其預防セントスル所ノ罪犯ハ故意ニ出サル者ナルヤモ亦知ルヘカラス將タ其人ヲ誤認シタル者ナルヤモ測リ難シマタ其嫌疑ニ觸レタル人ハ誠心ニ眞實ナリト思ヒ以テ之ヲ為シ而シテ未タ罪ヲ犯サ、ル際ニ自カラ手ヲ止ムルヤモ亦識知ス可ラサルヲ以テナ

リ故ニ其疑ヲ可キ所行アルノ徵證愈憑依シ易  
スカラサル者ハ之ヲ豫防スルノ法亦愈寛大十  
ルヲ要ス  
妄リニ人ヲ幽閉シ若クハ之ヲ邊僻ノ地ニ逐フ  
カ如キ罪ヲ犯スルハ之ヲ豫防シ制止スル為ニ  
ハ格段ナル方法ヲ用中サル可ラス其方法ノ要  
旨ハ即チ左ノ注意法ニ歸ス  
第一牢獄、癲狂院等ノ如クナル本人ノ意ニ出タ  
ルニ非スシテ之ヲ幽閉スル各種ノ家所ヲ調査  
シテ盡ク簿冊ニ登録スルヲ

第二ニ幽閉セル原因ヲ簿記スルヲ并ニ狂癲人  
ヲ幽閉スルニハ先ツ醫師ノ診察書無カル可カ  
ラサル者ト定ムルヲト此二個ノ記録ハ各地方  
ニ於テ備ヘ置キ何人ナリト一覽センヲ乞フ  
者ニハ必ス之ヲ出シテ閱讀セシムルヲトス可  
シ

第三或ル暗號ヲ設ケ置キ強テ捕拿シ拘引セラ  
ル、人ヲシテ其暗號ヲ行ヒ易スカラシメ行路  
ノ人其暗號ヲ認ムレハ直チニ拘引スル者ニ向  
テ其事故ヲ詰問シ若シ官吏ノ前ニ伴ハントス

ト云ハ、之ト同行シ若シ然ラスハ強テ之ヲ官  
 吏ノ前ニ拘引スルヲ得ルノ權ヲ與フル  
 第四ニ若シ人ノ幽閉スル所ト為ル者アリト思  
 フキハ其嫌疑スル所ノ人ノ家屋ヲ檢査スルノ  
 權ヲ與フル

第五章

軍法ヲ論ス

英國ニ於テハ一揆ノ變アルニ當テハ直チニ兵  
 カヲ以テ人ヲ殺害スルヲ為スノ法ハ行ハレ  
 ス先ツ兵力ヲ用ユル前ニ報知ヲ與ヘ始メニ軍

法ヲ布告シ官吏カ先ツ其事ヲ發言ヒレ後チニ  
 非レハ兵士ハ漫リニ手ヲ下スヲ得ス此法律  
 ノ主義ハ洵ニ美ナリト雖此之ヲ實地ニ施用ス  
 ルヤ太々困難ナリ

官吏ハ一揆群中ニ赴キ彼等ノ解シ難キヲ冗  
 長ニ演舌セサル可ラス且ツ一時間モ後レテ其  
 所ニ出會セシ人ノ為ニハ太々不幸ヲ與フルナ  
 リ何トナレハ未々其報知ヲ聞カスニテ彼等ト  
 共ニ重科ヲ犯シタル者ト認メラル可キヲ以テ  
 ナリ去レハ此法ハ無罪ノ人ノ為メニハ太々危

險ニシテ有罪ノ人ニ向テ施行スルニハ太夕因  
 難ナリ譯者案スルニ英國ノ習慣トシテ一揆  
 揆ヲ企テタル罪狀ヲ宣告シ若シ速カニ解散セ  
 サレハ止ムヲ得ス兵力ヲ用ユ可キ理由ヲ演フ  
 故ニ不幸ニシテ其所ニ行キ合セタル人ハ一揆  
 ト同様ノ罪犯者ト看做サル、ト云フナリ  
 故ニ此法ハ怯懦ト殘酷トヲ混合シタル者ト云  
 モ不可ナルナカラシ如此時ニ際シテハ官吏ハ  
 著シク人目ニ遮ル所ノ徽跡ヲ掲ケ人群ヲシテ  
 官吏ノ某所ニ在ルヲ知ラシムルヲ可トス彼  
 ノ有名ナル佛國ノ變動ノ時ニ用キシ赤旗ハ人  
 ノ想像上ニ大ナル勢力ヲ與ヘタリ紛々囂々々々

ル騷擾ノ際ニ於テ人ノ聲音ハ用ヲ為サス衆多  
 ノ人ハ之ヲ聞クヲ得サルカ故ニ唯群衆ノ目  
 ニ向テ語ルノ術ヲ用キサル可ラス抑モ辯論也  
 者ハ人ノ注意ニ沈嘿シテ聽クルノ三用ヲ為ス  
 者ナリ目ニ覩ル所ノ作用ハ瞬息ノ間直チニ感  
 通スルヲ得、ク且ツ即時ニ其意ヲ悟リ得ヘク  
 其意ハ單一ニシテ誤解ス可ラサル者ナリ騷擾  
 スル所ノ群衆カ假使聲ヲ放テ之ヲ紛亂セント  
 欲スルモ得ヘカラス獨リ此ノミナラス言辭ハ  
 種々ノ事情ニ依テ其勢力ヲ失フ者ナリ發言者

ノ人トナリ衆ニ厭惡セラレ、者ナル片ハ正ニ  
 キヲ演フル人甚ク其言ヲ憎ム者ナリ又其  
 舉動或ハ其言語ニ就テ嘲笑ス可キアル片ハ  
 其職務上ノ所行ニ至テモ亦嘲笑ス可キノ看ヲ  
 做ス者ナリ故ニ是等ハ口ヲ以テセス群衆ノ目  
 ニ向テ語ルヲ以テ便利トスルノ理ニシテ目ニ  
 語ルヘキノ器具即チ微號ヲ用ユルハ上ノ如  
 クナル不便アルヲナシ然リト雖モ時トシテハ  
 微號ト言語ト共ニ并セ用ヰサル可カラス其時  
 ニハスピーキングト口ペットト傳聲器ヲ用ユル

ヲ可トス此器ハ平常人ノ目撃セサル所ノ者ナ  
 ルカ故ニ其奇異ナルヲ見ルニ由テ聽者ヲシテ  
 口ヲ以テ語ル所ノ言辭ニ比スレハ格別ナル想  
 像ヲ起サシメ一個人ノ語ヲ聽クニハ非スシテ  
 純乎タル法律ノ言語ヲ聞クカ如キ思フ為サシ  
 ム此器ハ既ニ航海者ノ用ユル所ナリ海上ニ於  
 テハ人語カ風濤ノ響キニ妨ケラレ、ヲ以テ此  
 器ヲ用ユルナリ且ツ夫レ詩人ハ群衆ノ騷擾セ  
 ルヲ以テ風潮怒號セル大洋ニ喩フ今此譬喩ヲ  
 取テ法律上ニ假リ用ユル亦敢テ不適當ニ非ル

ナリ  
 而シテ其傳フル所ノ號令ハ頗ル簡短ニシテ通  
 常會話ノ如クナラサルヲ要ス且ツ令スルニ必  
 ス公義ノ大道ヲ以テス可シ王ノ名ヲ以テス可  
 ラス何トナレハ王ノ名ヲ以テスレハ其所為ノ  
 正否ニ拘ラス人民ノ怨ヲ買フアルヲ以テナ  
 リ亦其騷擾モ宿怨ヲ洩スカ為メニ起リシ者ナ  
 ルヤモ測リ難シ果シテ然ラハ王ノ名ヲ以テ令  
 スルキハ其騷擾ノ鎮撫スルハ能ハサルノミナ  
 ラス却テ一揆ノ勢力ヲ激勵スルノ憂ヒアリ若

シ其王ハ既ニ人民ノ怨府タルニ非スト雖一  
 揆ヲ解散シ鎮定スル為ニハ自ラ苛酷ノ措置ヲ  
 要スル者ナルカ故ニ王ノ名ヲ以テスルトキハ  
 却テ新々ニ民怨ヲ買フノ懼レアリ凡ヘテ仁惠  
 ノ政ハ之ヲ王ニ歸ス可シ苛酷ニ互ルノ措置ニ  
 至テハ之ヲ何人ニモ歸ス可ラズ其責任ヲ以テ  
 公道若クハ天道ノ如キ無形無色ニシテ人ノ想  
 像ニ映視スル者ニ歸ス可シ公道正義ノ如キハ  
 則チ不得已ニ因テ生存スル者ニシテ和平安康  
 ノ源ナレバ人皆之ニ從フ可クマタ之ヲ懼ル可

キヲ知レリ而シテ無形ナル者ハ固ヨリ之ヲ怨ムニ由シ無シ

第六章

補償法

補償トハ人アリ其被リタル所ノ損害ヲ償フ為メニ受クル利益ニシテ即チ罪犯ニ由テ害ヲ被リタル人ニ向テ其害ト同等ナル物ヲ與フルヲ云フ人ノ被リタル害ト之ヲ補償スル為メノ利益ト同量ナル者ハ之ヲ名ケテ完全ノ補償ト云フ故ニ幾回其害ヲ被ルニ害ヲ被ル毎ニ完全

ノ補償ヲ受クレハ被害者ノ為ニ損失無キナリ又被リタル所ノ害ニ比較シ来レハ受ケタル所ノ利均等ナラサルキハ之ヲ不充分ノ補償ト云フ而シテ補償二種アリ曰過去ト未來トナリ過去ノ補償トハ利益ヲ與ヘテ損失ヲ償フニアリ未來ノ補償トハ罪犯ヨリ生スル害ヲ制止スルヲ云フ若シ其害ノ自然ニ休止スルトアレハ是則チ法官ノ手ヲ借ラヌシテ自ラ補償シタル者ト看做ストヲ得例ヘハ金ヲ盜マレタリ此其金全ク所有主ノ手ニ歸スレハ則チ充分ナル未

來ノ補償タリ只暫ク財貨ヲ失フタル際タノ不便ヲ補償スル為ニ要スル所ハ之ヲ過去ノ補償トス然リト雖モ物品ヲ毀損セル等ノ如キハ其所有主ニ與フルニ毀損セシモノト同價ノ物品ヲ以テセサレハ未來ノ補償ヲ為スル能ハス過去ノ補償ハ暫ク其物品ヲ失フタル際タノ不便ヲ償フニ在リ

第七章

補償法ヲ必需ナリトスルノ理

補償法ハ第一等ノ害惡ヲ制止シ犯者ノ未タ罪

惡ヲ犯サ、ル以前ト被害者ノ未タ其害ヲ被ムラサル以前トノ景況ニ回復スル為メニ必需ノ者ナリ

又補償法ハ第二等ノ害惡ヲ制止スル為メニ一層必需ナル者トス何トナレハ罰法ノミニテハ此目的ヲ達スルニ不充分ナルヲ以テナリ抑刑罰也者罪犯者ノ數ヲ減スルノ効驗アルヲ勿論ナリト雖モ罪犯者ヲシテ其跡ヲ絶シムルヲ能ハス罪犯也者其事ノ世ニ發露スルノ多キニ從テ世人ニ多火ノ危懼心ヲ起サシムル者ナリ是



其犯罪者アリシヲ聞見スル人ハ時アリテ自家  
 モ亦其害ヲ被ムランニテ畏懼スレハナリ此畏  
 懼心ヲ散セント欲スレハ當ニ犯者ヲ罪スルノ  
 ミナラス隨テ補償法ヲ行ハサルヲ得ス若シ單  
 ニ刑罰アリテ補償無キハ罰ヲ受クル者愈多  
 ケレハ則チ其多キニ准シテ愈刑罰ノ効力ノ足  
 ラサルヲ徴ス可シ故ニ復々之ニ准シテ一般  
 ノ危懼心ヲ増加ス  
 然リト雖モ茲ニ最モ著意スベキ緊要ノ事アリ  
 此危懼心ヲ除去セシニハ其犯罪ノ事情ヲ見聞

セル人ノ意ニ於テ充分ナリト認ムルホトノ補  
 償ヲ為サシムルヲ要ス縱使被害者ハ其補償ヲ  
 以テ猶ホ不充分ナリトスルモ公衆ハ之ヲ充分  
 ト認ムレハ則チ可ナリ何トナレハ貪婪ナル人  
 ハ其補償ノ多キモ猶ホ足ルヲ知ラス又執念  
 強キ者ハ犯者ヲ處スルニ嚴刑ヲ以テスルモ猶  
 ホ寛ナリトス故ニ補償ハ傍觀者ノ充分ナリト  
 認可スルヲ以テ適度トスヘシ

第八章

補償ノ類別

補償法ハ分テ左ノ六種トス

第一貨財ノ補償

金銀ハ快樂ヲ與フルノ具ナルヲ以テ多クノ害  
ヲ補償スルノ力用アリ然リト雖氏兇惡者必ニ  
モ其害ヲ償フニ足ルノ金銀ヲ貯ヘサル者アリ  
又被害者カ金銀ノ補償ヲ受クルヲ以テ不快ト  
スル者アリ例ヘハ名譽ヲ毀損セラレタル人ニ  
對シ金銀ヲ以テ之ヲ償ハントスレハ却テ禮ヲ  
失フカ如キ類ナリ

第二品物ノ補償

是ハ奪フ所ノ物品ヲ所有主ニ返却シ或ハ毀損  
シタル所ノ物ヲ償フニソレト同様ノ物ヲ以テ  
スルヲ云フ

第三證見

罪犯者自ら其偽言トルノ補償

人ノ偽言ニ依テ生スル所ノ害ハ法律ニ由テ公  
然偽言タルノ證見ヲ得ル所ハ之ヲ以テ充分ノ  
補償トス

第四榮譽ノ補償

此法ハ罪犯者ノ為ニ幾分ノ榮譽ヲ損害セラレ  
若クハ將サニ損害セラレントスルニ當テ其榮

譽ヲ回復スルニ足ル所ノ措置ヲ為サシムルヲ云フ

第五復讎ノ補償

是ハ兇害ヲ加ヘシ所ノ者ニ苦楚ヲ與ヘ以テ被害者ヲシテ心ニ懺セシムル者ヲ云フ

第六代人ノ補償

是ハ他人ノ為シタル所ノ害ニ代テ補償スル者ヲ云フ

吾儕ハ事ニ臨ムテ補償法中マサニ孰レヲカ施用ス可キヤヲ決斷セントスルニハ宜ク左ノ三

條ヲ熟思ス可シ曰ク之ヲ行フノ難易曰ク將サニ償ハントスル損害ノ性質曰ク被害者ノ心術是ナリ此三條ニ就テハ猶ホ次下ニマサニ詳説スル所アラントス

第九章

補償ノ量

補償法充分ナラサルハ害ノ幾分カ償ハザル處アル者ト看做サ、ルヲ得ス故ニ今補償法ヲシテ不充分ナルトナカラシメカ為ノニ左ノ二則ヲ設ケ

第一罪犯ヨリ生スル所ノ損害ノ各部分ヲ遺漏  
無ク調査シマタ之ニ干係スル所ノ人ヲ悉ク點  
檢シ其度ニ隨テ補償ノ量ヲ斷ム若シ人身ヲ害  
シテ治復ス可ラサル者アルハ次ノ二箇條ヲ  
思考ス可シ曰ク被害者カ快樂ヲ得ルノ便ヲ減  
損セシ度曰ク被害者カ生計ヲ營ムノ便ヲ減損  
セシ度ヲ量ルトノニヲ要ス是等ハ同種類ノ物  
ヲ以テ一時ニ補償スルヲ能ハス然リト雖モ身  
ヲ終フルマテ時々其闕乏ヲ填補スルニ足ルノ  
措置ヲ為シテ之ヲ償ハサル可ラス但シ殺人ニ

干渉スル害惡ニ於テハ被害者ノ繼嗣タル者ノ  
之カ為メニ被ムル損害ノ度ヲ計リ一時ニ之ヲ  
償ヒ若クハ時期ヲ定メテ幾回ニモ之ヲ償フヲ  
要ス

財産ニ係ル所ノ害ヲ補償スルニハ何等ノ方法  
ヲ以テ適當トスヘキヤハ第十一章貨財ヲ以テ  
補償スルノ法ヲ論スルノ條下ニ詳説スヘシ  
第二疑似アル場合ニ於テハ犯罪者ノ所出ヲ以  
フセンヨリハ寧ロ被害者ノ為メニ餘裕アルノ  
補償ヲ與フルヲ可トス渾テ補償ノ過不足ヨリ

生スル所ノ損失ヲシテ之ヲ犯罪者ニ被ラシメ  
 被害者ニ與フル補償ハ之ヲ以テセシヨリハ寧  
 ロ多キニ過ルヲ可トス其過剩ナル部分ハ即チ  
 犯者ヲ罰スルト均シクシテ同種ノ罪ヲ再ヒ  
 犯スルヲ豫防スルノ効力アリ若シ補償ノ不足  
 ナルハ人ヲシテ猶ホ多少ノ疑懼心ヲ存セシ  
 ムル者ナリ且ツ人ヲ苦シメテ而シテ快ヲ取ル  
 為ノニ罪ヲ犯シタル所ノ者ハ其之ヨリ生スル  
 損害ト補償トヲ比較シテ補償ノ不足ナルアレ  
 ハ之ニ准スル所ノ快心ヲ犯者カ腦裏ニ留存ス

ル者ナリ  
 惟ルニ何等ノ邦國ニ行ハル、所ノ法律ニ論無  
 ク此條件ニ於テハ不充分ナル所多シ即チ罰ハ  
 常ニ重キニ失スルモ之ヲ憂ヒトセズ補償ハ不  
 足アルモ意ニ介セス然ルニ其法ノ由テ起ル所  
 以ノ本源ニ溯テ云フハ則チ罰也者之ヲ用ユ  
 ルノ重キニ失スルハ宛然人ニ害ヲ與フルナリ  
 補償ヲ與フル如キハ純粹ノ善事タリ而シテ特  
 リ其補償ヲ與フルニ吝ナルカ如キハ何ソヤ

第十章

補償ハ必然ナル可キ事

補償ノ必然ナルハ世ノ安全ヲ保持スル為メニハ闕クヘカラサル者ナリ若シ其必然ナラサルアレハ社會ノ安全モ亦隨テ減ス且ツ夫レ補償也者固ヨリ必然ナリ難キ因由多キ者ナリ之ニ加フルニ必然ナラサルノ法ヲ設ケ愈社會ノ安全ヲ減損スルニ至ルアラハ果シテ之ヲ何トカ謂ン此闕ヲ補フカ為メニ左ノ規則ヲ以テ要用トス

第一人ニ補償ヲ與フルハ務メテ被害者ノ身

ト共ニ減セサラシムルヲ可トス故ニ被害者カ受ク可キ所ノ補償ハ之ヲ繼嗣タル者ニ與フルヲ善シトスルナリ若シ其人ノ存亡ニ隨テ補償ヲ受ルノ權亦異ナルハ補償ノ價格ノ一部分ヲ失フ者ニシテ恰モ永世祿ヲ以テ終身祿トスルト一般ナリ補償ヲ受クル為メニ種々ノ手續ヲ為スヤ必ス長キ時日ヲ要スル者ナリ若シ補償ヲ受ク可キ權利アル人ヲシテ老衰或ハ脆弱ノ人タラシメハ其權利亦之ニ隨テ衰損シ已ニ殞ニ在ル人ナランニハ其權全ク價格無キ者ナ

リ加之補償ノ必然ナルヲ減スレハ犯罪者ハ  
罰ヲ免カレント僥倖ヲ希望スルノ念ヲ増ス是  
犯者ニ示スニ其所犯ノ罪惡ノ刑罰ヲ受ケスレ  
テ却テ其罪ニ由テ得ル所ノ利ヲ已レカ用ニ供  
ス可キ道アルヲ以テスルニ同シ如此ナレハ犯  
罪者ハ裁判ノ速カニ落着スルヲ畏レテ百方  
之ヲ沮ミ左枝右梧其甚キニ至テハ被害者ノ死  
ヲ促スニ至ル是レ老人病者ノ如キ格別ニ保護  
ヲ要スル人ヲ却テ保護セサルニ同キナリ  
論者或ハ曰ク補償ヲ為スハ被害者ノ生命ト

共ニ消却スルモ犯罪者ハ猶オ刑罰ヲ被ルカ故  
ニ敢テ上ニ謂フ所ノ如ク緊要ナル者ニ非スト  
然リト雖モ他ノ刑罰ハ決ニテ補償法ノ如ク適  
切ナル者ニハ非ルナリ  
第二被害者カ補償ヲ受クルノ權ハ犯者ノ生死  
ニ由テ消長ス可ラス犯罪者死セハ其後嗣タル  
者ヨリ被害者ニ向テ補償ヲ為サシムルヲ要ス  
若シ此法ニ循ハサレハ則チ補償ヲ受クルノ權  
ハ其價格ヲ減却シテ罪惡ヲ増進スルノ恐レア  
リ之ヲ譬フルニ其身死期ノ既ニ近キニ在ルヲ

ヲ前知セル者ハ彼ノ子孫ヲ利スルヲ謀リテ  
 大ニ兇惡ヲ逞フスルヲアランモ亦測リ難シ此  
 等ノ事アルハ人ノ思想スル所ニ比スレハ稍多  
 キ者ナリトス  
 或ハ曰ク犯罪者ノ死後其子孫ヲシテ被害者ニ  
 向テ補償ヲ為サシムル者ハ被害者ト同等ノ苦  
 ヲ犯罪者ノ子孫ニ與フル者ナリト然リト雖モ  
 此二類ハ大ニ其趣ヲ殊ニス  
 被害者ノ補償ヲ期望スルノ念ハ明且確ナル者  
 ニテ法律ノ保護ヲ恃ムト深ケレハ則チ其念亦

益固ニ

人ノ後嗣タル者カ人ノ財産ヲ襲フノ期望ハ明  
 確ナルヲ得サル者ナリ其期望スル所ノ目的ハ  
 現存ノ財産ヲ全ク承襲スルニ非スシテ渾テ當  
 然ノ費用ヲ除キ去テ純粹ノ殘餘ヲ占得スルニ  
 在リ故ニ其殘ル所ノ多寡ハ判然之ヲ豫知セル  
 者ニ非ルナリ之ヲ以テ此ヲ觀レハ縱使犯者ノ  
 後嗣ヲシテ依然被害者ニ向テ補償ヲ為サシム  
 ルハ其先人カ供樂ノ為ニ費セシ所ノ負債ト看  
 做サシムルモ亦奚ノ妨ケン



第十一章

財貨ヲ以テ補償スルヲ論ス  
 罪犯ノ種類ト性質トニ由テハ財貨ヲ以テ補償  
 スルヲ要用トスル者アリ或ハ貨財ヲ以テスル  
 ノ外ニ補償スヘキノ道無キ者アリ  
 到底之ヲ用ルノ法ハ其最モ効能アルヲ視テ而  
 シテ施行スルニ在リ  
 罪犯ノ種類竊盜強奪ノ如キ被害者ノ失フ所モ  
 犯罪者ノ得ル所モ共ニ貨財ニ干渉スル者ナル  
 キハ貨財ヲ以テ補償スルヲ適當トス此等ハ害

ト治ト彼此同種類ニシテ失フ所ヲ以テ其補償  
 ノ量ヲ定ムルヲ得

又罪犯ノ種類ニ因テ或ハ事ヲ等閑ニシ若クハ  
 過誤若クハ故意ニ出テ、人ニ害ヲ與ヘタル等  
 ノ如ク一方ハ貨財ヲ失ヒ而シテ一方ノ得ル所  
 ハ貨財ニ非ルルハ之ヲ補償スルニ貨財ヲ以テ  
 スルノ法較允當ナラス

或ハ人ノ名譽ヲ損スルカ如キ罪犯ニ於テハ被  
 害者ノ失フ所モ罪犯者ノ得ル所モ共ニ貨財ヲ  
 以テ計度ス可ラサル者ナルカ故之ヲ補償スル

ニ貨財ヲ以テスルノ法愈允當ナラス去レハ被害者ノ損失ニ依テ其償ヲ斷ムルト愈難ク犯者ノ所得タル利益ノ多少ニ從テ罰ヲ定ムルト愈容易ナラサル者ハ罰法補償法共ニ其目的ヲ達スルト益難キ者ナリ  
在昔羅馬ノ法律ニ於テハ人ヲ毆打スル者ノ補償ハ預テ一定セル金額ヲ以テス是榮譽ノ保護ト為スニ不充分ナル所無シトセス何トナレハ此補償法ハ人々ノ之ニ満足スルノ意相殊ナル者故ニ補償法トシテモ罰法トシテモ其効少シ

英國ニ於テモ昔時未開ノ時ノ法律ノ存スル者アリ女子ハ父ノ婢ト看做シ若シ其女子カ他ノ男子ノ為メニ誘惑シ姦セラル、并ハ其父ハ貨財ヲ除クノ外ニ補償ヲ受クルノ道ナシ蓋シ貨財ヲ以テ補償スル者ハ其女子ノ賍賑ノ為メニ多少婢ノ業ヲ怠ルヲ償フ為メナリ  
人身ヲ害スルトニ就テ之ヲ補償スルニ財貨ヲ以テスルノ法ハ被害者ト犯罪者ノ貧富ニ從テ適當ト為シ或ハ不適當ナリトス  
貨財ヲ以テ補償スルニ其貨財ノ額ヲ定ムルニ

ハ能ク過去ト未來ノ區分ヲ思察ス可シ未來ノ補償ハ害ヲ止ムルトニ限り過去ノ補償ハ已ニ被リタル所ノ害ヲ償フニ在リ去レハ被害者カ補償ノ財貨ヲ受クルトハ未來ノ為メノ償ニシテ其財貨ヨリ生スル利子ヲ受クルトハ過去ノ為メノ償ナリ利子ハ害ノ生シタル時ヨリ起算スルヲ以テ適當トス例セハ負債ハ之ヲ返却ス可キ期限ヨリ起算シ物品ヲ偷ク若クハ毀損シ若クハ人ノ資用スル差事ヲ妨ケタルハ共ニ其時ヨリ起算ス可シ補償ノ為ニ收ムル所ノ利子

ハ通常ノ利息ニ比スレハ高カル可キヲ要ス縱使必シモ通常ノ利子ヨリ高フスルヲ湏キサルモ犯罪者カ故意ニ如此ノ事ヲ為セシヤノ疑ヒアラハ必ス其利子ヲ高フスルヲ要スルナリ若シ其利子ヲシテ尋常ノ割合ニ過キサラシムル片ハ補償ノ充分ナラサルトアリ或ハ犯者ハ之カ為メニ却テ利ヲ得ルトアリ恰モ是債主ニ強迫シテ通常ノ利子ヲ以テ借リタル者ト相同シケレハナリ又犯罪者カ自家ノ快ヲ取ル為メニ他ニ損失ヲ被ラシメ其困苦スルヲ觀テ竊カニ

喜フ者アリ故ニ此ノ利子ハ故ラニ複利ヲ以テ  
 徵求マルトヲ許ス可シ複利トハ利子ヲ收ムル  
 期限ニ至テモ利子ヲ出サ、ルキハ其利金ヲ元  
 金ニ合シ更ニ其金額ニ利子ヲ加フルヲ云フ本  
 來財主ハ此利金ヲ其期限ニ收得セハ必マ之ヨ  
 リ更ニ若干ノ利子ヲ生シ以テ幾多ノ所得アル  
 可キ者ナレハナリ若シ此部分ノ償ヒ無キ片ハ  
 被害者ハ愈其損失ヲ増加シ犯者ハ却テ利ヲ得  
 ルノ道ナリ  
 償金ヲ出サシムルノ法ハ犯者夥伴ノ富ニ從テ

各出ス所ノ額ヲ定メ例ヘハ同犯五人アリ其罪  
 同シト雖トモ其貧富同シカラス若クハ其罪ノ  
 輕重ニ從テ之ヲ定ム如何トナレハ原ト補償ヲ  
 收ムルトハ罰ノ為メナレハ犯罪者ノ貧富相伴  
 シカラサル者ヲシテ各自ニ同額ノ金ヲ出サシ  
 ムルハ太ク公平ナラサルヲ以テナリ

第十二章

物品ヲ以テ補償スル法

物品譯者曰ク物品トハ珍禽奇獸花木器什ニ論  
 無ク渾テ人ノ所有物タルヘキ者ヲ云フ  
 ヲ以テ補償スルノ法ハ愛玩ノ情アル物品ニ係

ル際ニ於テ最モ要用ナリトス例ハ祖先ノ遺物家畜ノ類骨董書畫樂器ノ如クナルト雖モ亦所有主カ格別ニ愛玩スル者ヲ云フ何等ノ際會ニ於テモ要用トス可キ者タリ夫レ法律也者人ノ所有物ヲ保全シテ其所有主ヲ強テ同價異物ヲ以テ其償ヒテ受ケシメサルヲ要ス凡ノ物品ヲ以テ補償スルノ法無ケレハ法律ノ保護完全ナラス何等ノ物品ニテモ之ヲ保全スルノ法確タラサルキハ固ヨリ全局ノ保全亦之レアル可キ理無ケレハナリ茲ニ人アリ其意志ノ善惡ハ之ヲ知ラスト雖モ

一物ヲ取去リ其物品ハ復々他人ノ手ニ渡リテ誠心誠心トハ惡意無ク眞實ニ其物ヲ購テ所有トスルナリ以テ之ヲ所有トス此時ニ當テ其物品ハ之ヲ原トノ所有主ニ還ス可キヤ或ハ現在所有スル人ノ手ニ歸ス可キカヲ決定スルノ規準ハ至テ簡易ナリ即チ其物品ハ之ニ對シテ最モ鍾愛ノ情深キ人ノ手ニ歸スルヲ以テ允當ナリトス其所有主ノ愛情ノ淺深厚薄ハ之ヲ所有セシ時日ノ長短及ヒ其物品ヲ使用シテ得ル所ノ便宜ノ多少ト之ヲ得ル時ノ注意ト其費用トヲ比較スレハ容易ニ較

量シ得可シ如此等ノ事情ハ舊來ノ所有者ハ新  
ニ所有セル人ニ優ルヲ常トス

物品或ハ家畜ノ増殖スベキ者例ヘハ葡萄樹  
ノ菓實ヨリ葡萄ヲ生シ牛ノ犢ヲ生スル如ク  
現在所有主ノ手ニ入テ後チ更ニ其ヨリ生シ  
タル物モ本文ニ陳述スル所ノ法ヲ以テ愛情  
ノ厚薄ヲ計リ得可シ其物品家畜ハ現在ノ所  
有主ニ比スレハ從前ノ所有者ノ愛情多カル  
可シト雖モソレヨリ生シタル所ノ者ニ至テ  
ハ現在ノ所有者ノ愛情却テ多シ

又疑似アル際ニ於テモ左ノ理由ニ依テ物品ヲ  
舊來ノ所有者ニ還付ス可キモノアリ

第一現在ノ所有者ハ縱使證左トス可キ者無シ  
ト雖モ或ハ之ヲ掠奪セシ犯者ノ黨類ナルヤモ  
知ル可ラス此疑ヒハ人ノ之ヲ疑フニ非スシテ  
即チ法律ノ疑フ所ナリ誰彼ヲ問ハス如此際會  
ニ立ツ人ニ干係スル者ナルヲ以テ何人ノ榮譽  
ヲモ損スルヲナレ故ニ嫌疑トハ云フト雖モ偏  
執ノ嫌疑ニハ非ルナリ

第二現在ノ所有者ハ犯罪者ノ黨與ニ非スト雖

氏輕シク贓物ヲ購求シテ其販賣者ノ權利如何  
ヲ質サ、ル輕卒ト等閑トノ過失アリ若シ然ラ  
サルキハ不充分ナル證據ヲ輕信セルノ誤リナ  
リ  
第三偷盜ノ如キ重科ニ係ルノ際ニ於テハ直チ  
ニ現在ノ所有主ヨリ故主ニ向テ物品ヲ返却ス  
ルノ法アレハ犯者ヲ探知シ官ニ告發スルヲ  
勸漿スルノ効アリ  
第四若シ某物品ヲ以テ從來ノ人ニ所有セシム  
ルヲ惡ミ之ヲ失ハシメントテ目的トシテ掠奪

スル者ナルキハ之ヲシテ現在所有主ノ手ニ在  
ラシムルハ却テ犯者ヲシテ其目的ヲ達セシム  
ルヲ助ケ成スト一般ナリ  
又現所有主カ其物品ヲ購ヒシ價格非常ニ廉ナ  
ル者ハ之ヲ故主ニ還付スルキモ亦其價ヲ現所  
有主ニ還スヘシ凡ソ物品ヲ買フニ非常ナル廉  
價ヲ以テスルハ縱使犯罪者ノ黨類タルノ證據  
無シト雖モ太夕疑フ可キ情狀ヲ存スル者ナリ  
抑モ贓物ノ價直ノ太夕賤キ所以ハ之ヲ市店ニ  
曝スルハ或ハ罪犯ノ發露スルヤヲ懼ル、アレ

ハナリ故ニ非常ニ低價ナル物品ヲ購求スル人  
ハ宜シク之ヲ購フ前ニ於テ注意ヲ要ス可キハ  
勿論ナリ  
又假令現在ノ所有主ニ於テ罪狀アルヲ無キモ  
惡意ヲ以テ其物品ヲ携持スル人ヨリ買得タル  
者ナル故ニ之ヲ原トノ所有主ニ還付セサルヲ  
得ス但シ是等ノ際ニハ現所有主ニ相當ノ價ヲ  
與フ可シ其價格ノ如キハ法官ノ定ムル所ニ由  
ルヘシ新主カ其物品ヲ有スル際保存ノ為メ若  
クハ修補ノ為メニ消耗シタル費用ハ其物品ヲ

原主ニ還付スルニ於テハ充分ニ現主ニ償ヒ與  
フ可シ是社會公共ノ為メノ益ノミナラス原主  
ハ其費用ヲ償フモ猶ホ利アル可シ何トナレハ  
此償金ヲ與フルト否サルトニ依テ其物品ノ修  
補ヲ為スヲ獎メ或ハ妨クルカ故ナリ新主ハ  
原主ニ損失ヲ負ハシメテ獨リ利ヲ取ルヘカラ  
ス又舊所有主ハ新主ニ損失ヲ負ハシメテ獨リ  
益ヲ得ルヲアル可ラス損失ヲ蒙ムル所ノ所有  
主ハ第一ニ犯罪者ヨリ其償ヲ取り若シ其物ヲ  
償フヲ能ハサルキハ官金ヲ以テ之ヲ償ヒニ充



タシム可シ其官金ノ一ノ如キハ之ヲ後ニ詳カ  
ニス可シ第二章編第  
十八章

原トノ物品ヲ以テ返却スル一ノ成シ難キハ  
類似セル物品ヲ以テ之ヲ償フヘシ例ヘハ茲ニ  
同製ノ器アリ甲乙二人ノ所有ニ属ス今甲カ乙  
ノ所有セル器ヲ偷ミ故意若クハ不注意ニ依テ  
之ヲ失ヒ若クハ毀ツ然ルハ甲ハ其從來所有  
セル類似ノ器ヲ以テ乙ニ償還スルヲ適當ナリ  
トス

如此種類ノ罪犯ニ於テハ金銀ヲ以テ償還スル

ノ法ハ稍允當ナラスレテ且ツ不用ナルノ患ア  
リ器什ヲ愛玩スルノ情ニ至テハ他人ノ忖度ス  
可カラサル一アリ非常超凡ノ人ニ非ルヨリハ  
己レト好尚スル所ヲ異ニスル人ノ情ヲ察シテ  
相憐ム一能ハス一個ノ鬱金香ノ花ヲ以テ之ト  
同斤量ナル黄金ト交換シタル和蘭ノ愛花翁ハ  
古キ硝燈ヲ見テ非常ノ高價ヲモ厭ハスレテ購  
求スル好古家ヲ嗤笑セシ譯者曰ク花ヲ好ム人  
ハ花ヲ買フニ價ヲ品  
セス好古家ハ古物ヲ買テ價ヲ簡ハス其好尚ス  
ル所ノ情各相異ナリ故ニ彼此互ヒニ其情ヲ察  
スル一能ハサル一邦誌ニ藝喰フ蟲モ好キト云フ

ト一般ノ  
詰頭ナリ

今ヲ距ルテ數年前佛蘭西ノ裁判所ニ於テ一  
個ノ「カナリヤ」鳥ニ就テノ詞訟起リシテアリ  
其詞訟ノ事ヲ記載セル新聞記者ハ世ニハ愚  
ノ甚シキ者モアル者カナト痛ク此事ヲ毀笑  
セリ我ハ以為ク然ラスト凡テノ人ノ貴重ス  
ル物品ノ價格ハ想像ヨリ生スル者ナリ抑法  
律ハ人情ヲ保護スル為ニ作ル者ナル故ニ人  
間ノ幸福ヲ為ス所以ノ者ハ瑣末ナリト雖モ  
瑣末ナレハトテ之ヲ保護セサルノ理アル可

ラス我カ養育シテ我ニ馴レタル者ハ假令微  
禽小鳥ト雖モ之ヲ愛スルノ情深シ之ヲ愛ス  
ル有情深切ナルモ之ヲ保護セサル可ラサ  
ルハ固ヨリナリ上ニ云フ所ノ詞訟ノ如キ新  
聞記者ノ眼ヨリ視レハ愚狀痴態ナリト雖モ  
此詞訟ニ干渉シタル人ハ徒ニ金ヲ費スノミ  
ナラス一方ハ此詞訟ニ敗テ取レハ偷盜ノ名  
ヲ受ケ又一方カ勝テ得サルモ人ヲ誣告ス  
ルノ謗リヲ被リ各自ニ其名譽ニ干渉スル  
ルヲモ顧慮セス之ヲ訟フルホトノ者ナルカ

故ニ決シテ瑣末ノ事ニアラズ又之カ訴訟ヲ  
愚トシテ嗤笑スベカラズ

立法家ト雖モ法官ト雖モ多クハ尋常庸夫ト同  
一ノ想像ヲ有スル者ナルヲ以テ仔細ニ注意ヲ  
要ス可キ者ヲ措置スル為メニ作ル所ノ法律モ  
亦或ハ粗ニ失スルノ患無キニ非ス然ルニ事ニ  
因テハ貨幣ヲ以テ償フ<sub>一</sub>ハ幣ニ償ヒノ用ヲ為  
サ、ルノミナラス却テ恥ヲ與フルニ同キ<sub>一</sub>ア  
リ例ヘハ人アリ其豫テ繕戀セル少女ノ寫真ヲ  
珍藏セシニ同ク彼女ヲ慕フ者アリテ其寫真ヲ

竊ミ取タル<sub>一</sub>ハ之ヲ償フニ金錢ヲ以テス<sub>一</sub>此決  
シテ満足ス可ラサルカ如シ

器物ヲ以テ償フ<sub>一</sub>モ唯其償ヒノミニテハ之ヲ  
失ヒ<sub>一</sub>際タノ娛樂ヲ失墜セシ<sub>一</sub>所ノ損失ヲ償フ  
<sub>一</sub>充分ナラス去レハ此償ヒヲ算計スル<sub>一</sub>為メニ  
左ノ一例ヲ舉示ス

茲ニ一器物アリ人ノ盜ミ去ル所トナル此器物  
ノ價ハ鑑定者ノ定ムル所ニ由レハ一百圓トス  
之ヲ盜ミ<sub>一</sub>時ト之ヲ返却スル時トノ間一ケ年  
ト看故シ其利子ハ五分トス然レハ其償ヲ為ス

時ニ當テ一ヶ年ノ利子五圓トシ且ツ之ヲ罰ス  
 ルカ為メノ利子二圓半ヲ加ヘテ七圓半ヲ出サ  
 シム可シ(第十一章ヲ參看セヨ)  
 償ヲ為スルニ當テ其器物ノ偶然若クハ當然者  
 曰ク偶然ハ誤テ損スルヲ云當然ハ時間ヲ經ノ  
 ル中ハ自然ニ損ス可キ性質アル者ヲ云フ  
 損耗ヲ較量ス可シ即チ盜ミタル時ト返却スル  
 時トノ際タニ生スル所ノ損耗ヲ云フ器物ハ必  
 シモ損耗スル者ニ非スト雖馬ノ如キハ一年  
 ヲ經レハ則チ一年ノ品價ヲ減スル者タリ故ニ  
 裁判所ニハ年々物品ノ表ヲ作り其種類ニ依テ

其損耗ヲ受クルノ度ヲ明細ニ記セル所ノ目錄  
 ヲ備フルヲ要ス

第十三章

證見ノ補償

此補償法ハ虚説ヲ構ヘテ世人ノ思想ヲ動カシ  
 之ヲ以テ一個人ニ害ヲ與ヘ而シテ其害ノ多寡  
 ト有無トヲ計度スル為メニ確乎タル證據無キ  
 者ヲ補償スルニ最モ適當ナル者トス其虚構ノ  
 説ノ行ハル、際ハ恆ネニ實際ノ害ヲ牽起スノ  
 原因トナル而シテ之ヲ制止スルノ法ハ唯其詐

偽タルヲ明白ニスルノ一法アルノミ茲ニ詐  
 偽ノ罪犯ノ重キ者ヲ記ス可シ  
 第一流言浮説ヲ為シ人心ニ疑懼ヲ生スルノ害  
 ヲ為ス者例セハ妖怪幻術若クハ妖魔ニ魅セラ  
 ル、等ノ事ヲ流傳シテ人ヲシテ恐懼セシメ若  
 クハ悲哀セシム可キノ風説又佯死若クハ親戚  
 ノ不品行婦妻姦淫ノ風説財産ヲ失フ可キノ傳  
 説若クハ傳染病ノ蔓延敵軍侵入謀叛人ノ蜂起  
 火災ノ風説等多少人ヲ驚嚇スル者ヲ云フ  
 第二人ノ名譽ヲ害スル者

是ニ數種アリ曰ク格段ナル事實ヲ摘出陳説シ  
 テ人ノ名譽ヲ損スル者曰ク全ク其聲名ヲ損ス  
 ルト能ハサルモ其幾分ヲ減却スル者例セハ人  
 アリ名譽ヲ得ヘキ所ノ功業アルヲモ之ヲ隱蔽  
 シテ世ニ公ケニセサル等ノ如シ曰ク人ノ名譽  
 ヲ得ルトヲ妨礙スル者コレハ偽言ヲ構ヘ以テ  
 人ヲシテ功績ヲ顯スノ機會ヲ失ハシムル者ヲ  
 云フ曰ク人ノ聲名ヲ奪フ者即チ著述家或ハ書  
 家ノ如キ人ノ作レル者ヲ標竊シテ已レカ作り  
 タル者ノ如クスルヲ云フ

第三偽テ利ヲ得ル者例セハ流言浮説ヲ為シテ

物ノ價直ニ變動ヲ起ス者ヲ云フ

第四家族ノ樂ニ或ハ人ノ私權ヲ紊ス者

例ヘハ或ル夫婦若クハ父子ハ夫婦タリ若クハ

父子タルノ權利ナシト揚言スル者譯者曰ク西

テ昏禮ヲ為サハ男共ニスル者ト

雖氏夫妻ト看做サハ又婚禮ヲ為サハ男女ノ

際ニ生ム所ノ子ハ私生ノ子ト看做シハ子女ノ

言ズル者ナリト揚言スル者即チ婚禮ヲ為サ

為シテ他人ノ權利ヲ妨クル者

第五人ノ利ヲ得ルヲ妨クル者

是ハ物價ノ適當ナラサルト或ハ某物品ヲ賣ル

所ノ人某ハ之ヲ賣ルノ權利無シト揚言シ之ニ

由テ賣買ヲ妨クル者或ハ人アリ婚姻ノ如キ約

ヲ締フ時ニ際シテ偽詐ノ風説ヲ為シテ之ヲ延

滞シ或ハ遏止スルヲ云フ此等ノ事ニ就テハ裁

判ノ權モ其勢力ヲ失ヒ如何ナル方法モ之ヲ止

ムルノ功無シ唯明白ニ其偽詐タルヲ發露シテ

偽妄ノ勢力ヲ殺クノ一法アルノミ且夫過誤詐

偽ヲ制止シテ真實ヲ公布スルトハ法官ノ施行

ス可キ措置ノ中ニ就テ最モ貴重ス可キトナラ

スヤ

此證見ヲ以テ補償ヲ為スノ方法ハ之ヲ公布スルノ方法ノ同シカラサルニ從テ殊ナリ犯罪者ヨリ費用ヲ出シテ裁判ノ事實ヲ刊行セシメテ之ヲ頒布シ或ハ被害者ニ其頒布ヲ委ネ或ハ内外國ノ新聞紙ニ於テ其事ヲ公布スル等ナリ此簡短ニシテ要用ナル所ノ補償法ヲ想起セルハ佛蘭西ノ法律ヨリ借り來レル者ナリ佛國ニテハ讒謗セラレタル人アルキハ巴里門譯者曰ノ巴里門ハ昔時王國ノ時ニ在リシ衙門ニ於テニシテ上等裁判ヲ司リタルモノナリニ於テ

其費用ヲ出サシメテ裁判ノ事實ヲ刊行シテ之ヲ頒布セシメ以テ讒謗セラレタル人ノ名譽ヲ回復ス雖然如此ク犯罪者ヲシテ自ラ詐偽ノ罪ヲ犯カシタルヲ宣言セシメ強テ被害者ノ正良ナルトヲ公認セシムルモ格段ノ効能無キ者ナリ此等ノ方法ハ種々ノ弊アリ強テ人ヲシテ己レカ意底ニ在ラサルトヲ言ハシムレハ或ハ法律ヲ以テ強テ虚言ヲ為サシムルニ均シキトモアラン且ツ之ニ菴ムニ威力ヲ以テスレハ世人ヲシテ彼ノ強ラル、人ハ其威力ヲ懼レテ止

ムヲ得ス無實ノ事ヲ言フナル可シトノ觀ヲ為  
サシムルノミ故ニ之カ為メニ大ニ補償法ノ力  
ヲ減殺スル者ナリ犯者ハ強テ己レカ意中ニ無  
キ所ノ事ヲ具陳シ由テ以テ自家自罰ノ具ト為  
ス此レ其罰責ヲ重クセント欲スレハ此法ヲ用  
ユルモ猶ホ可ナリト雖モ其公布ノ書式ヲ換ヘ  
テ罪犯者ノ口供トセス裁判所ノ意見トシテ之  
ヲ公布セハ聊モ事ノ實ヲ失ハスニテ其目的ノ  
達スルヲ得可シ故ニ其書式ニ裁判ニ依テ我ハ  
偽言ヲ吐キタル者ト決定セリ裁判ニ依テ我ハ

正直ノ道ヲ失フタル者ト落著セリ此事ニ就テ  
ハ誰某ハ正道ヲ履踐シタルノ措置ヲ為セル者  
ナリト裁決セリト云ハシムレハ是被害者ノ為  
メニハ充分ナル補償ニシテ犯罪者ノ為メニモ  
亦充分ナル罰ナリ之ヲシテ我ハ偽詐ヲ吐キタ  
リ我ハ正道ヲ失セリ某ハ正道ヲ履踐セリト云  
ハシムルトモ格別ノ利益アルヲ無シ此書式ハ  
向キノ者ニ比スレハ其勢力稍強大ナル者ノ如  
クナリト雖モ其實ハ翻テ然ラハ唯裁判所ノ威  
力ヲ懼ル、カ故ニ云フ所ニシテ之ヲ言フ人ノ



意見ハ之カ為メニ聊モ變移セス之ヲ見聞スル  
人モ其實心ヨリ出ルニ非ルヲ自然ニ感悟ス  
讒謗セシ事カ事實ニ干係スル者ナランニハ其  
本人ヲシテ自ラ偽言ナルヲ云ハシムルモ必  
ス其心事ト牴觸スルヲナク裁判上過失ノ患モ  
亦少ナシト雖モ讒謗ノ事タル罪犯者自家ノ意  
見ニ關スル者ナランニハ強テ自ラ其言ノ詐偽  
タルヲ明言セシムルモ必ス其自家ノ心中ニハ  
屈伏セサル者ナリ如此事ニ於テハ公平ナル一  
般人民ハ縱使本人カ自ラ前言ノ非ナルヲ明言

セスト雖モ其果シテ偽言ナル者ナラニハ必  
ス其然ラサルヲ熟知スルハ之ニ十倍セリ又  
誤見ヲ懷ク者ハ假令充分ニ自ラ反省シテ靜思  
熟慮スルノカアルモ眼前敵視スル者ニ勝ヲ與  
フルヲ視已レハ自カラ之ニ勝利ヲ與フルノ具  
トナレルヲ考思スルヲ以テ至竟虚心平氣ニ  
シテ考察ヲ下スト能ハス又或ハ誤聞ニ由テ如  
是意見ヲ起セシ者ナルヤモ未タ知ル可ラス然  
ルニ之ヲシテ強テ自ラ其詐偽ナルヲ云ハシ  
ムルモ其犯者若シ讜正ノ人ナラハ益自ラ其

恥辱ヲ覺フ然レハ愈其罰ヲ輕クスヘキ者ニ對シ却テ此ヲ重ノスルト同一ナリ然ルキハ恐クハ多クノ姦惡者ハ却テ裁判所ノ判決ノ為メニ豫テ已レカ姦惡ナルヲ熟知スル所ノ人ノ口ヲ借テ何某ハ善人ナリト云フヲ世ニ公布セラレ、ニ至ル可シ

又一個ノ條件ニ因テ被ムリタル所ノ醜名コソハ全ク宛狂ナリト雖モ其等ノ人ハ恆ネニ萬般ノ事ニ就テ不良ノ性質ヲ有セサル人ナリト云フ可ラス若シ世人カ誰某ノ性質ハ不良ナリト

認ムル人ヲシテ裁判所ノ命ヲ以テ善人ナリト公布セシメハ法廷ハ自ラ世人ノ信任ヲ減シ裁判ノ威力ハ薄弱トナリ證見ノ補償法ハ全ク之カ為メニ其勢力ヲ失フ可シ

期約ノ事ニ就テハ如此深ク注意スルニ及ハス其條約中ニ本人ノ名譽ヲ害スル者ナキハ則チ充分ナリ譯者曰ク期約ノ事云々以下ノ文ハ但シ官ノ威力ヲ以テ強テ人ノ意ニモ非ル者ヲ言ハシムルト云フノ因ニ就テ述ヘタル者ノ如ク其生國ニ敵對セシムルノ約ヲ為サシムル見ユ兩國戰爭中敵ヲ擒ニシテハ不可ナリト雖モ強テ約束セシムルヲ云フハ不可ナリト雖モ

3010

39

37232

刑法論綱

卷二

河津合編

再ヒ彼ヲシテ戰ニ與カラシメサルノ約ヲ立テ  
シムルハ可ナリ何トナレハ其約束ヲ為サ、レ  
ハ禁錮セラレ或ハ殺害セラル、ヲ以テ戰ニ與  
カルヲ得サル者ナレハナリ

刑法論綱卷二終

購



